

Action against Child Exploitation

Annual Report

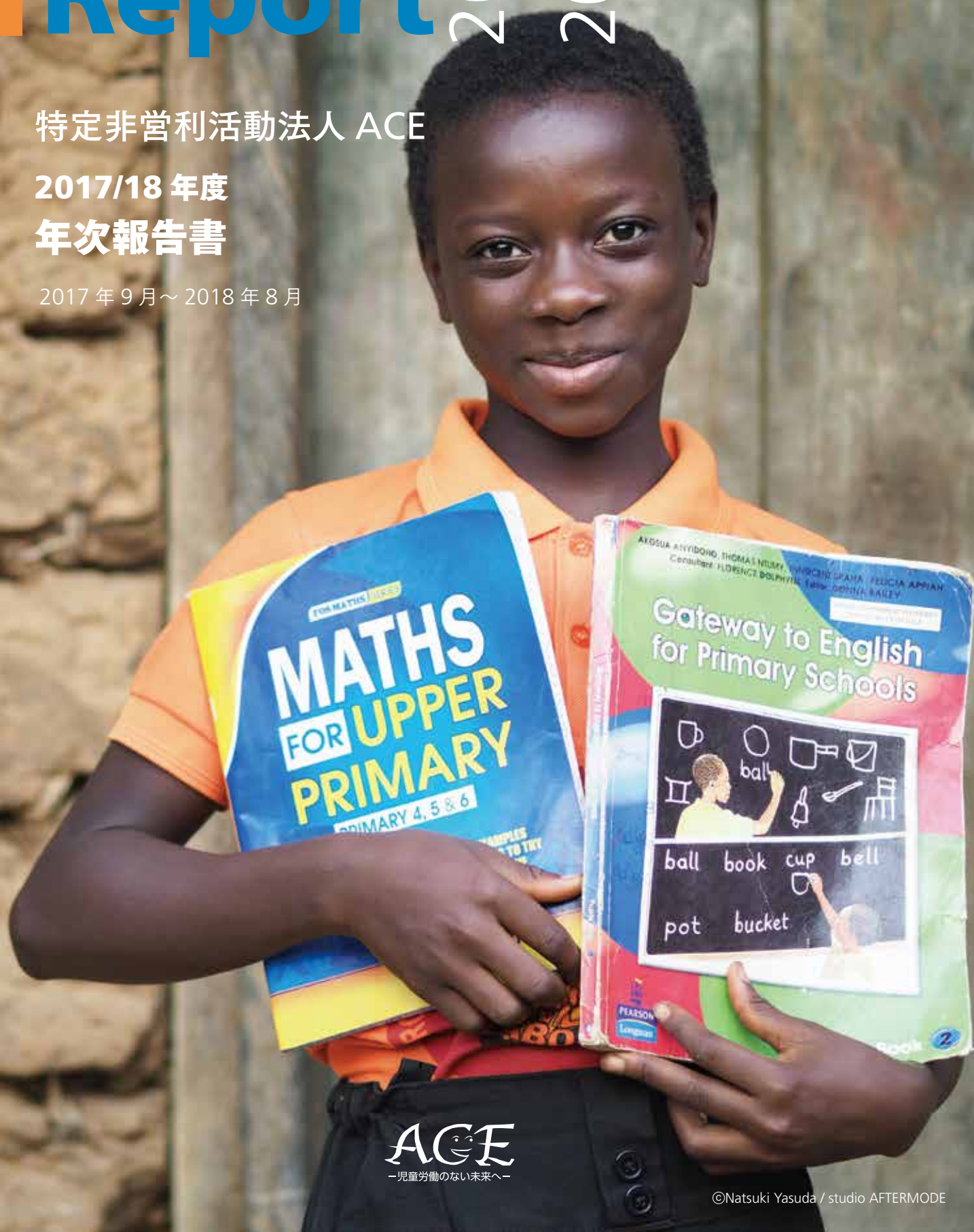
2017.09

2018.08

特定非営利活動法人 ACE

2017/18 年度 年次報告書

2017 年 9 月～2018 年 8 月



温かいご支援、ありがとうございます！

A C E は今年度もみなさまに支えられ、インドとガーナを中心に、
子どもたちを危険な労働から守り教育の機会を実現するための活動に
精力的に取り組んでまいりました。

支援地の子どもたちやコミュニティーのおとなたちとのさまざまな
出会いを通して生まれたたくさんの変化のストーリーが、
フォトジャーナリスト・安田菜津紀さんによる
素敵な写真の数々とともに凝縮された書籍
「チェンジの扉～児童労働に向き合って気づいたこと～」を集英社より
出版することができました。

これも多くみなさまのご支援により生まれた一冊です。

スタッフ一同、あらためて心より御礼申し上げます。



©Natsuki Yasuda / studio AFTERMODE



©Natsuki Yasuda / studio AFTERMODE



©Natsuki Yasuda / studio AFTERMODE



©Natsuki Yasuda / studio AFTERMODE



©Natsuki Yasuda / studio AFTERMODE



ごあいさつ

あらためて、 人権をあきらめない

2018年は世界人権宣言70周年でした。そして2019年は子どもの権利条約30周年、日本批准25周年の節目の年になります。ACEが2017年に策定したフィロソフィーとパーパスの実現方法、Theory of Change（変化の理論）をまとめる中でも、子どもの権利はひとつの重要項目になりました。そして国連ビジネスと人権指導原則に基づく国別行動計画の策定を日本政府もはじめており、市民社会組織グループとしてもそこへ提言をしています。

そのような活動の中で、人権を守るために必要な制度が欠けている現実に向直面します。例えば、政府から独立した人権機関が存在しないことや、子どもの権利に関する基本法がないことです。その疑問をNGO仲間にもぶつけてみると、20年以上前にそれを実現しようとして失敗した経験を教えてくださいました。そしてそこに含まれるメッセージは「だから難しい」。でも私は思うのです。その時と比べ、外部環境はかなり変わった。むしろ変わっていないのは私たちNPO/NGOなので

は？ 枠にとらわれず、既成概念を超えて活動する自由を最も持ち、根本的な変化を目指せるはずのNPO/NGOが、どうせ変わらない、変えられないとあきらめ、硬直化してしまっているのでは？と。

2017/18年度も大変多くの皆様からご支援いただきました。ありがとうございます。ACEはこれからも、SDG8.7の「児童労働を2025年までに終わらせる」を組織の目標と掲げ、チャレンジし続けます。ご支援、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

ACE 代表／共同創業者

岩附 由香



人と社会のチェンジの 扉を開けていく ACE に

いつも温かいご支援をいただきありがとうございます。あらたなパーパス、フィロソフィー、中期戦略を掲げて動き始めた1年。「2025年までに世界で児童労働を終わらせる」という目標を本気で達成するために「なにをすべきか」。模索しつづける過渡期の年であったと思います。2009年から多くの方々に愛されてきた「てんとう虫チョコ」の販売を終了したことはひとつの大きな方針転換で、惜しむ声もたくさんいただきましたが、より大きな市場や世界にうねりを起こしていくためのひとつの決断でした。日本だけではなく、グローバルレベルで企業や政府とどう手を組んでいくのか、ひと

つずつステップを踏み出しているところです。アルゼンチンでの第4回世界児童労働会議、コートジボワールでのカカオ産業の児童労働に関する国際会議、2019年に日本で開催されるG20に向けた、代表岩附のC20の議長就任などが、ACEとしてグローバルにインパクトを広げていくひとつの足がかりになったのではないかと思います。

20周年の節目に出版した書籍「チェンジの扉」は、その制作過程においても、自分自身を含むACEのスタッフや組織としてのチェンジのプロセスにも向き合う機会となりました。これまでの活動を通じて、「人生は選択でき、

変えることができる。誰もが、そのきっかけを持っている」ことを、多くの子どもやその家族に教えてもらいました。こうした変化を生むために、これまでご支援くださった方々に心より感謝申し上げます。

「ひとりひとりの人生がよりよいものに変化していく」ことの延長線上には、社会全体がよりよいものになっていくことが続いていると信じています。よりよい未来、世界のために、今までとは違う選択をしていく人たちが増えるよう、これからも活動を続けてまいります。今後ともご支援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

ACE 事務局長／共同創業者

白木 朋子



報告対象期間：2017/18年度（2017年9月1日～2018年8月31日）

※2018/19年度に入ってからからのニュースのうち、発行日までの重要なものについては、当報告書に掲載しております。
※所属・肩書きなどは当時のものを掲載しております。

表紙写真について

算数と基礎英語の教科書を見せてくれた、支援地の学校に通う女の子

ACE の事業環境と中期戦略

ACE を取り巻く環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

世界の児童労働の減少スピードの鈍化

2017 年 9 月に発表された国際労働機関 (ILO) の児童労働の世界推計によると、世界の児童労働者数は 1 億 5200 万人に減少しました (そのうち危険有害労働に従事している子どもは 7300 万人)。減少傾向は続いてはいるものの、前回発表の 2012 年のデータと比べ 1633 万人

の微減に留まり、このペースでは国連の持続可能な開発目標 (SDGs) のターゲット 8.7 の「2025 年までにすべての児童労働を終わらせる」ことはおろか、その時点で 1 億 2100 万人への減少にしかならないと ILO は指摘しています。

ESG 投資の世界的な広がり、持続可能な開発目標 (SDGs)、ビジネスと人権に関するビジネスセクターの意識の高まり

世界的に ESG 投資が拡大しており、一部で投資の引揚げも進んでいることから、非財務情報の公開や事業活動が環境・社会に与える影響への配慮などを促す企業に対するプレッシャーは強まっています。SDGs の出現により、これを経営戦略と統合する企業も出ており、環境・社会課題の解決への貢献を企業が考える機会は増えています。国連

「ビジネスと人権に関する指導原則」の国別行動計画、そこから波及した各国のサプライチェーンの透明化や人権デューデリジェンスを求める法整備等も広がっており、英国現代奴隷法をならった児童労働を含む労働問題とサプライチェーンにおける取り組みに関する情報公開の必要性が高まっています。

その他の動き

国内外の NPO・NGO による人権侵害や労務問題、資金の不適切利用などが発覚し、市民社会組織が自らの社会的責任を振り返る契機となりました。子どもの安全や権利の保護 (セーフガーディング) の必要性への認識の高まりをはじめとする新たな動きも出てきています。

日本のふるさと納税制度や米国で始動した官民連携による Global Fund to End Modern Slavery など、使途へ

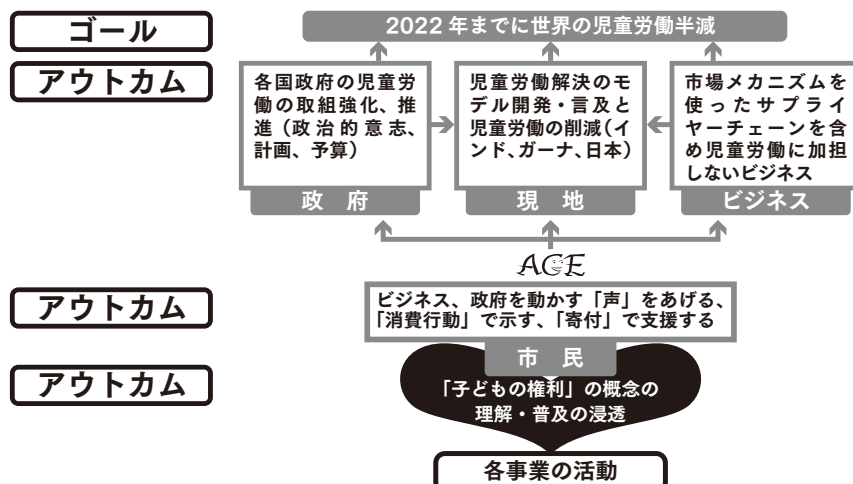
の共感に基づく NPO 指定の資金提供機会が増える傾向にあります。

2019 年には日本が議長を務める G 20 サミットや日本政府主催の第 7 回アフリカ開発会議 (TICAD7) をはじめとして、SDG 8.7 に関するアドボカシーの貴重な機会となる様々なイベントが予定されています。

以上のような、ACE の活動にとってプラス・マイナス両方向の環境要因のなか、自らの立ち位置と方向性を見失うことなく、常に真摯な姿勢で事業に取り組んでまいりたいと考えております。

ACE の中期目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

SDG 8.7 の達成を見据え「2022 年までに、1 億 5200 万人の児童労働者の 50% 削減」という中期目標を掲げています。この達成に向け、連続した一連の変化を起こし最終的な変化を実現したいと考えています。



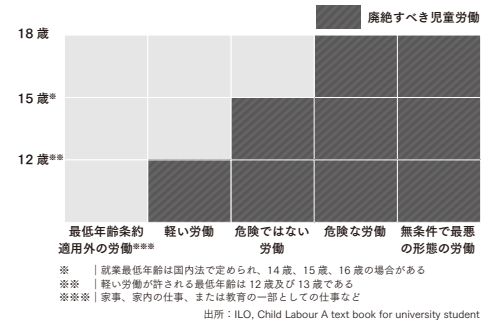
児童労働とは

児童労働とは？

児童労働とは、18歳未満の子どもの心身への発達に悪影響を及ぼす労働を指します。国際的な労働基準として、ILO（国際労働機関）の最低年齢条約、最悪の形態の児童労働条約の2つの条約が児童労働の定義を定めており、これは途上国も含む世界共通の基準とみなされています。基本的には15歳未満（義務教育修了前）の就労（12歳以上の軽い労働を除く）、15歳～17歳が行う危険・有害な労働を指します。義務教育修了年齢以上の危険ではない仕事、法律に違反しない仕事は、児童労働とはみなされません。

世界の児童労働—1億5200万人

2017年9月に国際労働機関（ILO）が発表した最新の世界推計によると、世界の児童労働者数は1億5200万人。世界の子どもの10人に1人が児童労働者です。児童労働の数は減少傾向にありますが、そのスピードが遅くなっています。地域別にみるとアフリカが依然5人に1人と高い割合であるだけでなく、人数でもアジア・太平洋を初めて上回り、最多となりました。産業別では農林水産業が約71%、サービス業が17%、工業が12%です。



持続可能な開発目標 (SDGs)、児童労働と ACE の活動

持続可能な開発目標 (SDGs) とは？

2015年の国連総会で、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。これは、世界のリーダーが合意した2030年の世界のありたい姿です。「誰も取り残さない (No one left behind)」という精神のもと、17のゴールと169のターゲットを世界共通の目標として決めました。このSDGsは、世界が直面するさまざまな問題の解決を目標とし、途上国だけでなく、先進国の政府や企業、市民ひとりひとりの取り組みが求められています。

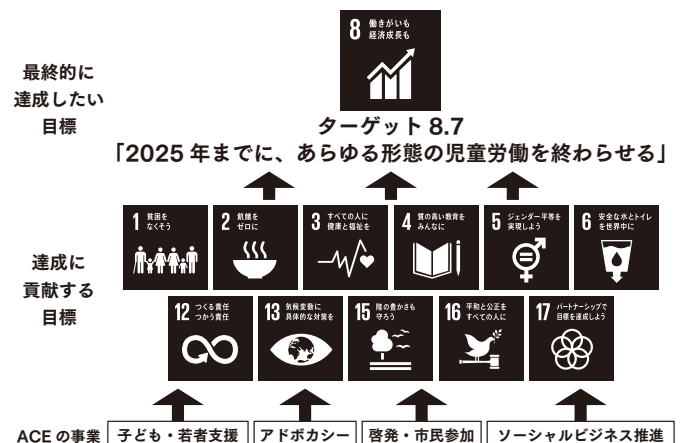
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



世界共通の目標となった児童労働の撤廃—2025年までにあらゆる形態の児童労働を終わらせる

SDGsの目標8「適切な良い仕事と経済成長」のターゲット7に「2025年までにあらゆる形態の児童労働を終わらせる」という目標が盛り込まれました。世界各国が取り組んで行くべき課題のひとつに「児童労働」が加わったのです。しかし、今のペースでは、2025年までにすべての児童労働の撤廃は難しいとILOも指摘しています。今まで以上に、市民、企業、そして政府を含め、問題解決へ向けた取り組みを加速させなければなりません。また、ACEの活動は、ゴール8以外の目標にも大きく貢献しています。





1日の勉強を終え、ブリッジスクールから家に帰る途中の子どもたち © Natsuki Yasuda / studio AFTERMODE

子ども・
若者
支援事業

ピース・インド プロジェクト

**インドのコットン生産地域で、危険な労働から子どもを守り
教育を支援するとともに、村の住民自らが児童労働のない村を
持続させていくようになることを目指し、活動しています。**

1年間で新たに137人の子どもが労働をやめ、教育を受けられるように。

世界最大のコットン生産国であるインドでは、特に遺伝子組み換えのコットン種子栽培に多くの殺虫剤や化学肥料などの農薬が多く使われ、18歳未満の子どもがその労働に就くことは「危険・有害な労働」として児童労働に当てはまります。現在活動している2つの村でも、義務教育年齢の子ども(6～14歳)の子どもの37%が教育

を受けられずコットン畑等で働いていました。

現在活動してる2村では、2014年からこれまでに累計535人の子どもが教育を受けられるようになり、学校環境の改善などを通じて、1500人以上の子どもの教育を支援してきました。

現在支援している村での活動期間は、残り1年を切りました。プロジェクト終了後は住民の自発的な活動で児

童労働のない状態を持続できるよう、人々の子どもの教育や児童労働に対する意識を変える啓発活動を柱として活動を進めています。中心となって活動を行うボランティアグループに所属する住民だけでなく、過去に自分の子どもを働かせていたおとも、働く子どもの保護者に子どもを学校に通わせるよう説得するようになるなど、村の住民の行動に変化が起きています。

労働からブリッジスクール（補習学校）、そして公立学校へ

働いていた子どもが、公立学校へ編入するための基礎学力や通学習慣を身につけることを目指したブリッジスクールを運営してきました。活動期間内に運営を終了し、全ての子どもが直接公立学校へ編入できるよう、住民ボランティアグループや公立学校の校長・教員と協力して支援しています。受け入れる側の公立学校の環境整備も進み、1つの村では2学年が新設されて10年生までの中等教育を村で受けられるようになりました。これまでは中等教育を受けるためには村の外の遠くの学校へ通う必要があり、特に女子が進学し教育を受けられるようになる大きな変化でした。



ブリッジスクールでの授業の様子
© Natsuki Yasuda / studio AFTERMODE

新たに50人の女子が仕立て屋になるための職業訓練を受けました

働いていて義務教育を受けられなかった15歳以上の女子向けに仕立て屋になるための職業訓練センターを運営しています。刺繍やミシンの技術の他、基礎教育を学び、訓練修了後は無利子融資でミシンを受け取り自宅などの安全な環境で収入を得られるようになっています。将来結婚し他の村に移り住んだ後も、子どもの教育費を支える収入を得る手段となります。



自宅で作った服を着た女の子と家族

住民への活動「引き継ぎ式」を実施しました

1つの村では児童労働者として特定された義務教育年齢の子ども202人のうち199人(98.5%)が教育を受けられるようになり、子どもを守る意識や行動が住民に定着してきたと判断し、活動をプロジェクトから住民に引き継ぐ「引き継ぎ式」を行いました。おとなだけでなく子どもたちからも「これからは自分たちで児童労働のない村をつくっていきます」と宣誓が行われ、住民が改めて村の変化やこれからの責任を認識する機会となりました。



引き継ぎでの宣誓

将来の夢は先生。今はおばあさんにとっての「先生」

モニカさん(10歳、仮名)は、ブリッジスクールに通うようになる前、兄と一緒にコットン畑で働いていました。両親は出稼ぎのために1年間のほとんどを離れた都市で過ごすため、祖母が代わって村で子どもたちを育ててきました。ブリッジスクールで習った現地公用語のテルグ語の文を誇らしげに読み上げるモニカさん。「将来は学校の先生になりたい」と話します。理由は「ブリッジスクールの先生の授業がわかりやすく、面白かった」から。

教科書にのっていることを面白く教えてくれる「ビジェラクシュミ先生のようにになりたい」とはにかみながら教えてくれました。

その隣に座る祖母と話していると、文字は読めない一方で自分の名前を書くことだけはできることがわかりました。村のおばあさんの年代で学校に通ったことのある人はほとんどいないため、どこで勉強したのか尋ねると、「モニカに習った」と答えが返ってきました。そのおかげで、銀行でお金を

借りる際のサインも人に頼まず自分のできるようになり、文字がかけることの大切さを実感したそうです。モニカさんは、ブリッジスクールから村の外の寄宿制の公立学校に編入し、学校の先生になるための勉強をしています。



モニカさん(左から4番目)と祖母(左から2番目)
© Natsuki Yasuda / studio AFTERMODE

インド・コットン生産地の子ども支援活動「ピース・インド プロジェクト」の概要

対象地域	インド テランガナ州ジョグランバ・ガドワル県マルダカル地区の2つの村(活動予定期間 2014年4月～2019年3月)
主な受益者	●義務教育年齢(6～14歳)の子ども約1,580人、特にそのうち児童労働者として特定された597人 ●15～17歳の女子約145人、親や住民約8,200人(約1,640世帯)
パートナー団体	SPEED (Society for People's Economic & Educational Development)



本プロジェクトの実施には、連合「愛のキャンパ」、花王ハートポケット倶楽部「みらいポケット基金」からの助成金、その他日本教職員組合、UA ゼンセン、ティ・ディ・パワーシステムズ・リミテッド日本事業所、アシックスユニオン、株式会社サンウェル、国際ソロプチミスト仙台、洋服ポスト月島などの企業・法人、個人のみなさまからのコットン募金でのご支援を活用させていただきました。



プロジェクト卒業セレモニーで演劇を披露する子どもたち

子ども・
若者
支援事業

スマイル・ガーナ プロジェクト

**これまで支援した 8 つの村での活動を終了し、
新たに 2 つの村で活動を開始しました。**

**ガーナのカカオ生産地で、児童労働をなくし、
持続可能なカカオ栽培ができるようになる村を目指して活動を行っています。**

「児童労働がないカカオの生産地」実現に向け、住民の自発的な行動が定着してきました

ガーナのカカオ生産地では、約 90 万人の子どもが危険で有害な労働を強いられています (米チューレン大学、2015)。スマイル・ガーナ プロジェクトは、2009 年 2 月に開始し、2018 年 8 月までにガーナのアシャンティ州アチュマ・ンブニウア郡の 8 つの村で、累計 454 人の子どもを危

険な労働から救い、就学を支援してきました。2018 年 1 月にこの 8 村での活動は終了し、3 月に卒業セレモニーを行いました。今後は、ガーナ政府との協働で「児童労働のない地域」の制度作りとその村の認定に向けて、住民自身の力で児童労働のないカカオ生産地を維持していきます。

また 2018 年 2 月からは、ブロンアハフォ州アスナフォサウス郡の 2 つの村で新たにプロジェクトを開始し

ました。この 2 村ではこれまで同様、住民グループによる「子ども保護委員会」の組織化とその見回り活動、学用品の支給、学校環境の改善、教員トレーニングの実施、カカオ農家の生活向上 (農業トレーニング、互助会活動等) のほか、義務教育年齢を終えた 15 歳から 17 歳の子どもへの支援も行う予定です。

8つの村での活動を終了し、卒業セレモニーを行いました

2009年から実施したアチュマ・ンブニャ郡の8村での活動が2018年1月に終了しました。これに合わせて、8村横断で「児童労働モニタリングチーム」が組織され、地域全体で児童労働をなくしていく活動を維持する仕組みを確立しました。住民自身の手で児童労働を防ぐ体制が整ったため、2018年3月に「プロジェクト卒業セレモニー」を開催しました。セレモニーでは郡の代表や村長のあいさつの後、学校の生徒による「児童労働をなくそう」をテーマにした劇も上演されました。生き生きとした表情で劇を演じる子どもたちを見て、プロジェクトの成果を心から実感しました。

今後は、ガーナ政府による「児童労働のない地域」の公的な認定をうけ、児童労働のないカカオ生産地を自分たちの手で実現・維持することを目指します。



卒業セレモニーでの「児童労働モニタリングチーム」のメンバーたち

新しい2つの村でプロジェクトが始まりました

2018年2月から、新たにブロンアハフォ州アスナフオサウス郡にある2つの村でプロジェクトが始まりました。この2村は、1月で活動を終了した8村に隣接する地域で、同じくカカオ生産が主な産業です。人口は約900人、そのうち子どもは約400人、児童労働に従事している子どもは約80人です。またカカオ農家の多くが移住労働者で、児童労働者の多くがその家庭の子どもでもあります。

プロジェクトを開始し、住民グループ「子ども保護委員会」が組織されると、多くの働く子どもとその家族への働きかけが行われ、これまでに73人の子どもが児童労働をやめ、学校に通えるようになりました。

これまでの活動の経験を活かして、児童労働のない地域づくりを目指していきます。



新しい村での集会の様子


北部から移住してきたジョンさん（13歳）

ジョンさん（13歳、仮名）は、小学校3年生を中退した後は一度も学校に行かず、カカオ畑や家の家事などをしていました。ジョンさんの家族はガーナ北部から移住しており、家も貧しく、また両親はいずれも学校に行ったことがありませんでした。しかし「子ども保護委員会」の粘り強い説得のおかげで、小学校5年生のクラスに再入学し、学校に通うようになりました。好きな科目は算数で、将来銀行員になるのが夢です。ジョンさんの両親は、彼が学校に通うようになってから自信がみなぎるような様子で暮らすようになり、ジョンさんをとても誇らしく感じるようになったそうです。



ジョンさん（前列左）とその家族

ガーナ・カカオ生産地の子ども支援活動「スマイル・ガーナ プロジェクト」の概要

対象地域	アシャンティ州アチュマ・ンブニャ郡8村とその周辺集落 (2016年9月～2018年1月) 及びブロンアハフォ州アスナフオサウス郡の2村(2018年2月～)	
主な受益者	義務教育年齢（4～15歳）の子ども約4,500人、 およびカカオ生産農家約8,500人（約1,800世帯）	
パートナー団体	CRADA (Child Research for Action and Development Agency)	

本プロジェクトの実施には、森永製菓株式会社、株式会社フェリシモ、ショコラティエ パレド オール/株式会社オヴァールリエゾン、立花商店株式会社、株式会社フクイ、大和ハウス工業株式会社城東支店などの企業、個人からのチョコ募金、まちづくり地球市民財団助成金、チョコステッカーの販売からのご寄付を活用させていただきました。

アドボカシー事業

国際活動：児童労働世界会議でプレッジ発表

国内活動：日本の児童労働について政府に要望

グローバルなアドボカシーやキャンペーンに貢献し、国内では日本における児童労働の存在について発信し、国内外で児童労働撤廃に向けて政策提言活動を行いました。

「第4回児童労働の持続的な撤廃会議」で発言

「第4回児童労働の持続可能な撤廃会議」がアルゼンチンのブエノスアイレス市で2017年11月14～16日に開催され、100か国以上から政府、使用者、労働者および市民社会組織の代表3800人が参加しました。会議では9つのハイレベル・パネルと19の特別セッションが行われたほか、市民社会組織は毎朝会議の前に集まって情報や意見交換する場が設けられました。

ハイレベル・パネル「社会的保護」には、労働大臣と並んでACE代表の岩附がパネリストとして登壇しました。ACEをはじめとする市民社会組織は、政府による社会福祉サービスとそれを必要としている人びとをつないだり、よりよいサービスにするためのアドボカシー活動を行うなど、重要な役割を果たしていることを伝えました。

最終日の全体会議では、各国政府に続いて市民社会組織もプレッジ（誓約）する機会が与えられ、ACEと児童労働ネットワークの代表が壇上で児童労働撤廃へのコミットメントを示しました。

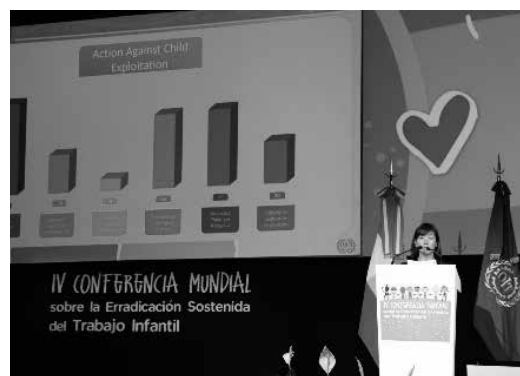
また、「児童労働に反対するグローバルマーチ」の理事として、他の理事や他の市民社会組織とSDG8.7達成に向けた共同アクションについて議論をしました。



ハイレベル・パネル「社会的保護」



会議場：Predio Ferial de Buenos Aires



全体会議でプレッジ

「100 ミリオン・キャンペーン」開始

ノーベル平和賞を2014年に受賞したインドの人権活動家、カイラシュ・サティヤルティ氏のイニシアティブで「100 ミリオン・キャンペーン」が2016年末に始まりました。1億人の子ども・若者（13～25歳）が、1億人の社会から疎外された子どものために立ち上がり、自由で、安全に、教育が受けられる社会を創るために、立ち上がろうというグローバルなキャンペーンです。

2018年8月3日には、中学生、高校生、大学生が集まり、日本での正式なローンチ・イベントを開催しました。また、大学生によって100 ミリオン・メーカーズ・ユース・ジャパンというグループも設立され、今後連携しながら活動を展開していきます。



「100 ミリオン・キャンペーン」 ローンチ・イベント

セミナー「日本にもある児童労働」開催

ACE 主催としては初となる議員会館内でのセミナーを 2018 年 6 月に開催しました。ACE から日本の児童労働についての調査の中間報告として児童労働の定義、規模、形態、要因について説明し、児童労働をなくすにあたっての課題を指摘しました。続いて、「沖縄の繁華街で働く 10 代の女性」「子どもに対する商業的性的搾取」「ブラックバイトの実態」について、3 名のゲストスピーカーからお話いただきました。

政治家、政府官僚、会社員、NPO 職員、学生、メディアなどさまざまな立場の参加者が日本の児童労働問題について理解を深め、日本で児童労働を無くしていかなければならないという共通認識を生んだ場となりました。



セミナー@参議院議員会館

児童労働ネットワーク

児童労働ネットワークは、児童労働に問題意識を持ち、日本からこの問題の解決に貢献することを目指す NGO、労働組合などが加盟するネットワークで、ACE が事務局を務めています。

世界の児童労働の動向について発信

- ・国際労働機関（ILO）が 4 年ごとに発行している「児童労働の世界推計」報告書が、2017 年 9 月に発表されました。その内容を簡潔にまとめたプレスリリースを配信し、記者会見も行いました。
- ・「第 4 回児童労働の持続的な撤廃会議」に参加し、全体会議でプレッジ（誓約）をしました。
- ・この会議および「児童労働の世界推計」について、関係省庁に報告し、意見交換をしました。

「ストップ！児童労働 50 万人署名

～児童労働のない 2020 東京オリンピック・パラリンピックに～

3 年ぶりに実施した署名活動では、特に学校、生活協同組合、労働組合の方々から多くの参加があり、過去最高の 72 万 3650 筆の署名をいただきました。この署名をもって、児童労働撤廃に向けて取り組みを促進するように政府に要請します。

「ストップ！児童労働キャンペーン 2018」

児童労働にレッドカードアクション！

今年も児童労働反対世界デー（6 月 12 日）に合わせて、児童労働に反対の意見を示すキャンペーンを実施しました。その頃、「2018 FIFA ワールドカップロシア」が開催されていたことから、サッカーを通じて児童労働について知ってもらおうと広報内容を工夫して発信しました。学校や企業を通して、また個人の方など、5,405 人にご参加いただきました。



プレッジ・ボードにも記入



段ボール箱いっぱい届いた署名用紙



レッドカードで、児童労働に NO !

ソーシャルビジネス推進事業

「チャイルドレイバー・フリー」の追求が新たなステージへ

ACEの支援地のひとつ、ガーナのカカオ生産地域では、「児童労働のない地域」の枠組み作りなどを現地政府と協働で進めることで合意しました。これを契機に、あらゆるステークホルダーが連携して課題解決に取り組むことを呼びかける、新たなステージへと一歩前進します。

CLCCG 年次総会で提言 / CL フリーカカオ・イニシアティブの進捗

今期は、2009年から継続活動してきたスマイル・ガーナ プロジェクト及びグローバルなカカオ産業におけるネットワーキング活動が実を結び、新たなステージを迎える助走の時期となりました。

2017年10月米国で世界カカオ財団(WCF)のパートナーシップミーティングに参加、2018年7月にはコートジボワール、アビジャンでのカカオ産業における児童労働撤廃に向けたココアコーディネーティンググループ(CLCCG)の年次会合で発表するなど、グローバルレベルでの経験共有と提言、ネットワーク構築を、各方面で進めることができました。特に後者のCLCCGの会合後、ガーナ労働雇用関係大臣と面会し、カカオ生産地域における児童労働の撤廃及び「児童労働のない地域(Child Labor Free Zone、以下CLFZ)」の確立において、ガーナ政府とACEがCLFZの枠組み策定と、ACEの活動地におけるパイロット認定の実施を両者が協働で進める方向性で合意することができました。

また国内では、活動地で栽培された「チャイルドレイバー・フリー カカオ」を使った商品も、2018年8月末現在で、10企業(ブランド)より20点の商品が消費者向けに市場で販売されていることを確認しています。

2018年11月末に予定しているCLFZ 枠組み策定に向けたガーナでのステークホルダー会合を契機に、日本企業のより強い協力を引き出しながら、ガーナ全体の児童労働撤廃に向けて大きな一歩を踏み出します。



CLCCGでの白木



支援地産カカオを使った商品例

コットン生産地の現状を世界の企業に発信

2017年10月に米国で開催されたテキスタイル・エクスチェンジ(TE:持続可能な繊維素材の認証管理、データ調査と発信等を行うアメリカの団体)主催の国際会議に出席・登壇しました。世界のアパレル・小売の大企業なども多く集まる場でしたが、コットン生産に児童労働に関わることがあまり知られていないという現状が改めて認識されました。

2018年6月には国際会議でつながった企業・団体に協賛や登壇の協力をいただき、セミナー「サステナブルな認証基準の今」を開催しました。TEから担当者を招き、オーガニックコットン等の認証基準や世界の動向などを日本の企業や関係者に発信しました。



セッションに登壇した岩附

※この活動は、平成29、30年度独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受けました。

企業との交流と連携

法人会員交流サロン／ビジョナリーリーダーズクラブ

ACE は前期より、CSR 部門責任者等を主な対象とした「ACE 法人会員交流サロン」を、また今期より、チャレンジを続ける企業経営者を中心に各界のリーダーの方々を対象とした「ACE ビジョナリーリーダーズクラブ」（以下、VLC）を定期開催し、学びと交流と連携の場として運営しています。

毎回、時流に合ったテーマを設け、その分野の知見が豊富な有識者の方々を外部からお招きし、貴重な情報をご提供いただいています。

2018 年 4 月に開催した第 5 回目のサロンでは、WCF の副会長 Tim McCoy 氏らを招き、「コレクティブインパクト」をテーマにしたトークセッションを実施。メーカー、商社、Bean to Bar ブランドなど含めネットワークを広げ、協業を促進しやすい環境づくりに一歩前進できました。

当期は下記の通り、サロンを 3 回、VLC を 2 回開催しました。

ACE 法人会員交流サロン：第 3 回（2017 年 9 月）	ワークショップ「この T シャツはどこからくるの？」
第 4 回（2018 年 1 月）	SDGs 時代の企業の事業・CSR 戦略を学ぶ
第 5 回（2018 年 4 月）	サプライチェーンの児童労働と環境に取り組む先進事例から学ぶ
ビジョナリーリーダーズクラブ：第 1 回（2017 年 10 月）	ローンチイベント "Grace & Grit" - 品格とやり抜く力
第 2 回（2018 年 5 月）	"NEVER SAY NEVER" のリーダーシップ



T マッコイ氏（左）他、登壇者の面々

サプライチェーン労働・人権監査研修の開催

サプライチェーンのリスク管理が課題となり多くの企業がサプライヤーに対する調査、確認プロセスを導入すると同時に、顧客企業からも監査や自己診断の要求を受けることが一般的になるなか、人権リスク把握の土台となる姿勢、視点や具体的な手順、注意点などの基礎的知識に対するニーズが高まっています。ACE は、企業の調達部門や CSR の責任者、担当者を主な対象とした「サプライチェーン労働・人権監査研修」をロイドレジスタージャパンと共同で開始いたしました。2017 年 9 月から 2018 年 7 月までに 4 回開催し延べ 54 社、64 名に参加いただき、「具体的に何を行うべきかを体系的に学べた」「着眼点、留意すべき点などが分かりやすく学べ、すぐに業務に活かせる」など高い評価を受けました。



研修風景

大手企業のステークホルダダイアログに参加

ACE は人権課題に取り組む団体として、企業等から意見を求められることが増えています。2018 年 6 月には大手総合印刷会社の本社より、同年 8 月には総合スーパーマーケットをはじめとする業態のチェーンを全国展開する大手流通の事業統括会社よりお招きいただき、他の団体や大学・研究機関等からの有識者とともに、専門の見地からの情報を提供し、それぞれの企業の人権デューディリジェンスの実行に向けたお手伝いをいたしました。

GCNJ を通じた企業との交流と協働

持続可能な世界を実現するための世界的な枠組み「国連グローバル・コンパクト（UNGC）」の日本における推進母体である「グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン（GCNJ）」に加盟しています。GCNJ には参加企業で構成される様々な分科会があり、ACE は、サプライチェーン分科会、人権 DD 分科会、ESG 分科会のメンバーとして活動を行っています。

SB-J の年次イベントに登壇

持続可能なビジネスを提唱し新たな時代を切り拓くブランド・イノベーターをサポートする会員組織「サステナブル・ブランド ジャパン」（SB-J）の年次イベント「サステナブル・ブランド国際会議 2018 東京」（3 月に開催）のセッションに白木が登壇し「環境や人権に配慮した『持続的な調達』とは？」「世界や日本の先進企業はどう人権問題に取り組んでいるか」などのテーマについて語り、ディープサプライチェーンに存在する児童労働について説明しました。



啓発・市民参加事業

「児童労働のない世界」の実現に向けて、一人ひとりの一歩を

講演やイベント、キャンペーン、ボランティア機会、グッズ販売などを通じて、社会を変えるアクションへの参加を呼びかけました。

まずは知ることが、はじめの1歩！講演 / ワークショップの開催

ACE スタッフを派遣し、学校や一般市民向けのイベント・セミナー等で講演やワークショップを行いました。今期は、61 件の依頼を受け、4,036 人に向けて、児童労働問題や ACE の活動について伝えることができました。

参加者の感想シートには、「自分たちが使っているモノが児童労働とつながっていることをはじめて知った」、「これからは寄付やフェアトレードの商品を買うようにして子ども達を応援したい」等のコメントがあり、気づきをアクションに移そうとする想いがたくさんみえました。



ワークショップの様子

東京マラソン 2019 チャリティの寄付先に決定

東京マラソン 2019 チャリティでは、寄付をされた方の中でご希望の場合は、チャリティランナーとして大会に参加することができます（※但し定員になり次第終了）。練習から大会当日まで、様々なイベントを行う予定です。東京マラソン 2019 の開催日は 2019 年 3 月 3 日ですので、一緒に盛り上げていただけると嬉しいです！詳細は ACE ウェブサイトをご覧ください。

東京マラソン 2019 チャリティ公式ウェブサイト

<https://www.marathon.tokyo/charity/>

※ ACE は、東京マラソン 2019 チャリティ事業の寄付先団体です。



アートで児童労働のない未来をつくろう！ACE チャリティ・アート・オークション開催

2018 年 8 月 23 日、渋谷のワインバーローディにて、「ACE チャリティ・アート・オークション」を行いました。10 名のアーティストに写真や絵画など合計 14 作品をご提供いただき、落札総額は 46 万円に達しました。ラジオパーソナリティの柳井麻希さんが司会をしてくださり、アーティストの Usato さんと大槻智子さんも会場に駆けつけてくださったほか、ミュージックゲストでギタリストの関根彰良さんが素敵な演奏でイベントを盛り上げてくださいました。このオークションの収益（実施にかかる経費を除く）は、ACE が国内外で実施する活動に使わせていただいたほか、50% を 2018 年 7 月に発生した西日本豪雨災害の支援活動に寄付させていただきました。



【参加アーティスト（順不同）】安田菜津紀さん（フォトジャーナリスト）、蓮井幹生さん（写真家）、Usato さん（画家・デザイナー）、土屋秋恆さん（水墨画家）、辛酸なめ子さん（漫画家・コラムニスト）、Flynn J. Wallace さん（アボリジナル画家）、Lisa Vogt さん（写真家）、石野千尋さん（写真家）、COOKIEBOY さん（アイシングクッキーアーティスト）、大槻智子さん（セラミックアーティスト）

ガーナの子どもたちに「LOVE」を贈ろう！～「1 more LOVE キャンペーン」～

2018 年 1 月、あなたの「愛や感謝＝LOVE」をそばにいる大切な人だけでなく、遠く離れたチョコレートの故郷ガーナの子どもたちにも届けよう！と呼びかける「1 more LOVE (ワンモアラブ) キャンペーン」を行いました。このメッセージを伝えるのが「1 more LOVE チョコステッカー」です。「LOVE」の 4 文字 (Life, Opportunity, Vacation, Education) にガーナの子どもたちに届ける 4 つの変化の意味を含めました。ステッカーは 1 シート 500 円(税込)で、全額がガーナの子どもたちへの寄付(チョコ募金)として活用されました。

キャンペーンの趣旨に賛同いただいたイケア・ジャパン株式会社より、2018 年 2 月 8 日～3 月 14 日に開催された「スイーツ フェア」での売上の一部もご寄付いただきました。シンガーソングライター川嶋あいさんとのコラボレーションにより「1 more LOVE チョコステッカー Ai Kawashima × ACE」も誕生。2018 年 8 月に開催されたライブ会場にブースを設けていただき、ACE スタッフがステッカーの販売や活動紹介を行いました。



1 more LOVE チョコステッカー
1 シートは 11 個のシールに分かれています

キャンペーンにご協力いただいたみなさま、ありがとうございました。

石川県ユニセフ協会、株式会社大川印刷、一般社団法人ガールスカウト群馬県連盟 第 18 団、公益社団法人ガールスカウト日本連盟、社会福祉法人燦々会 あすなろホーム、情報産業労働組合連合会、株式会社セールスフォース・ドットコム、Salesforce ユーザグループ、仙台障がい者合気道会 無碍館道場、捜真チョコプロジェクト、タカシマヤ粒のぶどう基金、栃木県立小山城南高等学校 英語部、鳥羽商船高等専門学校 ESS、富山国際大学付属高等学校 家庭部、福井県立高志高等学校、福岡県生活協同組合連合会 (五十音順、敬称略)

親子で楽しめるイベントを実施！ACE ママチーム「バレンタイン一揆」上映会

2018 年 2 月 12 日、新宿にて、ACE ママチーム (ACE のママスタッフとママボランティア) の企画運営イベントとして「親子で楽しむ映画『バレンタイン一揆』上映会～チョコから見える、世界のこと～」を開催しました。昨年に引き続き第 2 回目となる今回も赤ちゃんから大人まで多くの方にご参加いただき、映画「バレンタイン一揆」の上映後、カカオ生産地の生活を体感するワークショップもおこなわれました。ACE ママチームは今後も親子で楽しめるイベントを企画しています。メンバーも募集中ですので、お気軽にご連絡ください (パパも大歓迎です)。



ACE ママチームメンバーと ACE スタッフ

ボランティアのみなさんと一緒に、参加の輪を広げることができました！

今年も全国各地の支援者・ボランティアのみなさんと一緒に各地の国際協力イベントに出展し、児童労働の現状や子どもの権利、ACE の取り組みや目指す社会を伝え、児童労働のない世界を実現するためのアクションへの参加を呼びかけました。イベントでのボランティアに加え、ACE 事務所や協力企業の会議室等で実施した事務ボランティアにもたくさんの方にご参加いただき、ボランティア参加の延べ人数は、138 名に上りました。

●主な出展イベント (開催地：協力団体)

グローバルフェスタ JAPAN (東京：タカシマヤ粒のぶどう基金)、ワールド・コラボ・フェスタ (愛知：ACE 名古屋グループ)、ワン・ワールド・フェスティバル (大阪)、せんだい地球フェスタ (宮城：ACE 仙台グループ)



グローバルフェスタにて、ボランティアのみなさんと

20 周年記念事業

設立 20 周年を記念して本の出版やイベントを通じ、支援者・協力者への感謝を表すとともに、新たなパーパス（存在意義）やフィロソフィー（世界観）、今後のビジョンなどについて発信しました。あらためて、ご支援に感謝申し上げます。

「チェンジの扉 ～児童労働に向き合って気づいたこと～」(集英社刊) を出版！

インド・ガーナでのプロジェクトをきっかけに児童労働をしていた子どもやその家族 1 人 1 人が起こしてきた変化や、ACE スタッフ自身が経験を通じて実感した「誰しも変化を起こせる」というメッセージを、フォトジャーナリスト安田菜津紀さんの写真とともに 1 冊にまとめました。出版にあたり、クラウドファンディングを実施し、157 名以上の方より約 251 万円のご支援や応援をいただきました。



安田さん インド撮影風景



インド取材 (2017 年 12 月 7 ～ 12 日)



ガーナ取材
(2017 年 12 月 25 日～2018 年 1 月 5 日)



ACE 20th Anniversary 感謝イベントと題し、2 度にわたり東京でイベントを開催！

vol.1 「この世界は生きるに値するすばらしい場所 ～その未来を築くのはわたしたち～」(6 月 10 日)

110 名を超える方々のご参加のもと、ゲストに安田菜津紀さん、ジュエリーブランド HASUNA 代表 白木夏子さん、ジャーナリスト堀潤さん、コピーライター並河進さんを迎えたトークセッションを行いました。ショコラティエの三枝俊介さんが特別に作ってくださったガーナの支援地産カカオ豆を使ったチョコレートケーキで 20 周年をお祝いしました。企業に協賛をいただいて実現したお楽しみ企画や、想いのつまったお祝いメッセージに、これまで ACE を支えてくださった多くの方々の存在をあらためて感じました。



vol.2 『チェンジの扉』出版記念パーティー ～パーパスが切り拓く人生と社会～を開催！(8 月 3 日)

ACE の新しいパーパス（存在意義）やフィロソフィー（理念）について、テラ・ルネッサンス創設者の鬼丸昌也さんから岩附・白木にご質問いただくかたちでお伝えし、当日発売された本に込めた想いなどを編集者の井尾淳子さん、集英社の出和陽子さんと共にお伝えしました。長年 ACE を支援してくださっている方々にも激励のメッセージをいただきました。



< イベントには以下の企業・団体によりご協賛いただきました。心より御礼申し上げます >

日本労働組合総連合会 | 株式会社オルタナ | 有限会社チェンジ・エージェント | AFRIKA ROSE | Conche |
株式会社 HASUNA | パタゴニア日本支社 | フェアトレードカンパニー株式会社 | 興和株式会社 | freee 株式会社 |
ショコラティエ パレド オール / 株式会社オヴァールリエゾン | 株式会社 WASARA |

主なメディア掲載実績 ほか

2017 年

9 月 27 日	TBS テレビ「N スタ」	世界の児童労働者 1.5 億人以上、先進国も初の調査対象
10 月 13 日	中国新聞（共同通信配信）	児童労働 アフリカの農業で深刻
10 月 30 日	中国新聞（共同通信配信）	サプライチェーン改革 人権リスク 鈍感な日本
11 月 1 日	朝日小学生新聞	1 億 5 千万人が働かされている 児童労働 学校にも行けず危険
11 月 14 日	朝日新聞（25 面；東北信）	コットン T シャツどこから？ 長野 短大生ら生産地の児童労働学ぶ
12 月 9 日	東京新聞（9 面）	児童労働解放 「子どもたちの変化」一冊に NPO 資金繰り出版へ
12 月 22 日	日本経済新聞（6 面）	働く児童救済へ連携の輪を 児童人権活動家 カイラシュ・サトヤルティ氏
12 月 28 日	alternaxS	15 歳少女が工場で転落死、NPO「児童労働」と声明文

2018 年

1 月 27 日	FM ヨコハマ	1 more LOVE キャンペーン
1 月 30 日	TBS ラジオ	1 more LOVE キャンペーン
2 月 3 日	25ans オンライン	1 more LOVE チョコステッカーをチェックして！ ライフスタイル
2 月 10 日	東洋経済オンライン	2020 年「チョコレート危機」は本当に来るのか
2 月 12 日	毎日新聞朝刊（20 面）	なくそう豆生産地の児童労働
2 月 14 日	J-WAVE	チョコレートと児童労働
7 月 2 日	GARDEN Journalism	「虐待」、「貧困」、「不登校」…子どもの抱える課題が作る、日本の児童労働の形
7 月 3 日	東洋経済オンライン	18 歳以下の女性を狙う卑劣な人身取引の実態 日本にも児童労働の深刻な問題が現実にある
8 月 10 日	オルタナ S	児童労働解決へ、世界の若者がつながる
8 月 27 日	毎日新聞【週刊サラダぼうる】	安田菜津紀の写心館 チョコの陰、今も児童労働

上記を含め 55 件の報道で ACE の活動が紹介されました。

How to Join ACE ? ACE の活動を応援する 参加するアクションのご紹介

あなたの興味・関心やライフスタイルに合わせて、社会を変える一歩を踏み出してみませんか？どんな小さなことでも、その一歩が、すべての子ども・若者が笑顔でいられる社会へと繋がっていくはずです！

① 知る・学びを深める！

◆ メルマガに登録する

◆ SNS をフォローする

ACE の最新情報について、メルマガや SNS で発信をしています。いまずぐ気軽にはじめられるのでぜひ！

② 身近なアクションをする！

◆ 古本・洋服などを送る

◆ フォトアクションに参加する（春～夏限定）

古本・洋服を送ったり、写真を SNS に投稿する等、身近なモノ・ことで ACE を応援することができます。

③ 寄付で応援する！

◆ 子どもの権利サポーターになる

月々 1000 円からのご寄付によって、支援を必要としている子ども・若者を継続的に支えることができるサポーター制度です。

④ ACE の活動に参加する！

◆ 学生インターンとして関わる

◆ 社会人プロボノとして関わる

随時インターンやプロボノを募集しています。興味がある方はぜひご連絡ください。

ご支援いただいたみなさま

2017 年度も多くの個人・企業・団体のみなさまにさまざまな形でご支援をいただきました。
あたたかいご支援に、こころより感謝申し上げます。



S&R 財団 理事長兼 CEO
Halcyon 創設者兼議長
株式会社フェニクシー共同創業者

久能 祐子 さん

現在問題となっているグローバルイシューは、一国では解決できない非常に複雑な問題です。その問題解決のためには、各国政府をはじめ、企業、NGO、個人それぞれが国を越えて協力していくことが必要です。ACE が取り組んでいる児童労働の撤廃と予防もグローバルイシューの一つであり、ACE はこの課題に 20 年前から向き合い、一歩ずつ着実に世界に変化をもたらしています。そんな彼女たちの歩みを私は心から応援しています。



ショコラティエ パレド オール
オーナーシェフ

三枝 俊介 さん

世界のどこかで今も現実に存在する児童労働の問題は、日本で平和に暮らす人々にはなかなか届かず、知ったとしても自分たちに何が出来るのか解らないなか、ACE さんの活動は本当に意義のあることと思います。チョコレートを作る人にとってガーナのカカオはとても重要ですが、そこにある問題はみんなで取り組んでいかなければならないと思います。私達に出来ることはほんの少しですが、持続可能な協力出来る様に取り組んで行きたいと思っています。



ビザ・ワールドワイド・ジャパン
株式会社 代表取締役社長

安淵 聖司 さん

ACE は、「世界中のすべての子ども」を対象にした大きなビジョンを持っていて、その実現にまっしぐらに向かっていくのが、とても力強く、応援している方が元気付けられます。

一人一人の力は小さくても、それが集まることにより着実に世の中が変わっていくことを、ACE の活動を通じて改めて実感しました。これからもいろんな人を巻き込んでいきたいと思っています！



シンガーソングライター

川嶋 あい さん

ACE さんの取り組んでこられたことは確実に世界を変えようとしている。そして、目には見えない所で、誰かの未来を変化させている。その変化を生み出すのに、どれほどの想いを注ぎ込んでこられたのか…。それは、ACE の皆さんの発する言葉や姿勢から充分に感じ取ることができる。

“何かしたい”、“だけど何をしたいのかわからない”一人だとくすぶっていた気持ちを“とにかくなんでもやってみよう”そんな風に前に進ませてもらえる。

途上国の子供達の為に一歩踏み出してみたいと少しでも考えている方がいるならぜひ ACE さんを通して、その想いの灯を、もっともっと明るく照らして欲しい。

世界を 1mm でも、優しくできることを信じて…。



フォトジャーナリスト

安田 菜津紀 さん

昨年インド、ガーナにお邪魔し、ACE の皆さんが向き合ってきた子どもたちと出会うことができました。戸惑いながらも初めて学校に行った日の喜び、得意な科目、将来の夢、彼ら彼女たちは誇りを持って語ってくれました。

背中を押された子どもたちが成長を遂げ、今では次の世代にバトンを渡す頼もしい存在となっています。これからも子どもたちの未来へと続く道のりを、優しく照らし出して下さい。



会社員
プロボノ チョコチームリーダー

甲斐 雄一郎 さん

設立してから 20 周年を迎え益々のご活躍を期待しています！児童労働の無い世界を実現するべく、ガーナにおけるカカオ生産やインドにおけるオーガニックコットンの生産など幅広い分野で愚直に取り組む姿勢は学ぶべき点が多いです。

ガーナでのカカオは生産をさらに拡大するため新たな課題がたくさん出てくるのが予想されます。これからも寄付や活動への参加を通して陰ながらサポートさせて頂きたいと思っています。

●個人会員・寄付

正会員 118 人 | 賛助会員 70 人 | マンスリーサポーター 437 人 | 寄付 396 人 |

●法人会員 40 企業・団体

特定非営利活動法人アユース仏教国際協力ネットワーク | 旭化成株式会社 繊維事業本部ベンベルグ事業部 | アシックスユニオン |
株式会社アバンテージ | 株式会社アバンティ | 有限会社イトウェル | 井関産業株式会社 | ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社 |
株式会社大川印刷 | 株式会社グリーンエバー | 株式会社クレアン | 興和株式会社 | 株式会社小宮コンサルタンツ | 山陽製紙株式会社 |
株式会社 SHIBAURA HOUSE | 株式会社シンゾーン | 株式会社新藤 | 株式会社セレスポ | 仙台 ACE 支援書道教室 | 仙台児福会同窓会 |
株式会社ソニー・デジタルエンタテインメント | タキヒヨー株式会社 | 株式会社立花商店 | 特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス |
タカシマヤ粒のぶどう基金 | のら猫クロッチ(株式会社ヌールエデザイン総合研究所) | 日本食品関連産業労働組合総連合会(フード連合) |
株式会社プレート | 株式会社プレセナ・ストラテジック・パートナーズ | みちのくポテトクラブ | みんな電力株式会社 |
株式会社村上憲郎事務所 | 森永製菓株式会社 | 株式会社ヤマグチマイカ | ロート製薬株式会社 | ロイドレジスタージャパン株式会社 |
株式会社 budori | OrangeOne 株式会社 | SU 小 ACE を支援する会 | UA ゼンセン |

●法人寄付 71 企業・団体

森永製菓株式会社 | 株式会社フェリシモ | e-フィット合同会社 | ショコラティエ パレド オール / 株式会社オヴァールリエゾン |
株式会社古藤事務所 | 株式会社神奈川ナブコ | 株式会社立花商店 | ティ・ディ・パワーシステムズ・リミテッド日本事務所 |
アシックスユニオン | 株式会社フクイ | オリンパス株式会社 | キューピー株式会社 | 昭和産業労働組合 | イケア・ジャパン株式会社 |
埼玉県立川口高等学校 | 宮城学院中学校・高等学校 | 株式会社サンウェル | 国際ソロプチミスト仙台 |
公益社団法人日本フィランソロピー協会(株式会社 NTT データ) | 洋服ポスト月島 | 有限会社チェンジ・エージェント | 小林メリヤス株式会社 |
株式会社三笠商会 | CCP ライフサポート | 情報産業労働組合連合会(情報労連) |

※誌面の都合により、5 万円以上の寄付をいただいた団体・法人のみ掲載しています。

●その他の協賛・協力

日本労働組合総連合会 | 株式会社オルタナ | AFRICA ROSE | Conche | 株式会社 HASUNA | パタゴニア日本支社 |
フェアトレードカンパニー株式会社 | freee 株式会社 | 株式会社 WASARA | 豊島株式会社 | Ecocert Korea |
株式会社 Control Union Japan | NTT 労働組合 東京総支部 | 株式会社スピーディ | デロイト トーマツ コンサルティング合同会社 |
株式会社つばさプラス | ブックオフオンライン株式会社 |

※チョコキャンペーン、チャリティオークションへのご協力は P14、15 に掲載しています。

●助成金

独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金 | 連合 愛のキャンパ | 花王ハートポケット倶楽部 | 東京労働局 キャリアアップ助成金 |
東京都 正規雇用転換促進助成金 | 公益財団法人東京しごと財団 働き方改革助成金 | 一般財団法人まちづくり地球市民財団 |
株式会社セールスフォース・ドットコム |

■ ACE の支援方法と用途について

認定 NPO 法人である ACE へのご寄付や賛助会費は税額控除や寄付金控除の対象となります。

みなさまのご支援、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

会員	正会員（一般、子ども・学生）	ACE の事業と組織運営全体をご支援いただきます。正会員は総会の議決権を持ち、組織運営に参加いただけます
	賛助会員（個人、企業、非営利団体）	賛助会員（個人、企業、非営利団体）には議決権はありません。
寄付	子どもの権利サポーター (旧マンスリーサポーター)	1,000 円以上の任意の金額を毎月ご寄付いただく制度です。寄付は国内外の各事業に使われます。
	ACE 募金 (旧 ACE111 募金)	児童労働をなくすための国内外の活動に使われる募金です。
	チョコ募金	カカオ生産地域での児童労働をなくすための活動に対する募金です。
	コットン募金	コットン生産地域での児童労働をなくすための活動に対する募金です。
	チャイルドフレンドリー募金	海外で実施する活動に使われる募金です。
基金	世界の子ども権利基金	NPO 法人化 5 周年を記念し設立した基金です。周年事業の実施、新規事業や組織基盤の強化に使われます

ACE の活動理念

パーパス

Purpose
究極的な存在意義

私たちは、子ども、若者が自らの意志で人生や社会を築くことができる世界をつくるために、子ども、若者の権利を奪う社会課題を解決します。

フィロソフィー

Philosophy
理念

平和、豊かで持続可能な世界をめざします Peaceful, Prosperous and Sustainable World

世界は生きるのに値するすばらしい場所である。人は誰でも存在する価値があり、無限の可能性を持っている。ひとりひとりの多様性や違いを認め合い、可能性を開花させること、未来を見据えて社会と自然環境が共生することで、平和で、豊かで持続可能な世界が実現できる。

子どもの今と未来を最優先します Children First

誰でも子どもから人生をスタートさせる。子どもは人類社会にとって新しいエネルギーの源泉である。子どもは今と未来を生きる存在である。子どもの権利と豊かな人生を保障するのは、今を生きるすべてのおとなの責任である。

内側からの変革を起こします Change starts from within

誰にでも、社会を変える力、どんな大きな困難をも乗り越える潜在的な力があるあらゆる変化は人の内側から起こる。意識が変わることで行動が変わり、大きなシステムを動かす。子どもや若者には変革を生む力がある。

ウェイ

Way
行動指針

システム思考 Systems Thinking

あらゆる社会課題はすべてつながっている。部分最適ではなく全体最適をめざす。対症療法ではなく、根本的な解決をめざす。

権利ベースアプローチ Rights-Based Approach

根本的な解決を実現するための考え方として人権、権利をベースとしたアプローチを採用する。国際条約で定義されている義務と責任を、それぞれの関係者が果たすよう働きかけ、促す。

対話、エンゲージメント、パートナーシップ Dialogue, Engagement and Partnership

問題解決に不可欠なのは対話とエンゲージメント。お互いの違いを理解し、対話することで、まだ見えていない新たな解を見出すことができる。変化を起こすために、目的を共有する様々な組織や個人とのパートナーシップを重視する。

学習する組織 Learning Organization

組織として、複雑性から学び、前例や思い込みにとらわれない、今までにないイノベティブな解決策を創造する。個人のビジョンと成長が、組織のビジョンと成長の源泉となり、学び進化し続ける組織を追求する。

夢を描き、可能性を見出し、信じて、行動し続ける Dream, Discover, Believe, Do

大きな夢を描き、自分の持つ強みや可能性に気づき、機会を捉えて一步を踏み出す。自分や他者が持つ力、社会は変えられることを信じ、困難があっても小さな前進を喜びながら、大きな変革を起こしていく。

新活動理念の策定経緯・組織概要

エースは、インドの人権活動家カイラシュ・サティヤルティさん（2014年ノーベル平和賞受賞）が呼びかけた世界的なムーブメント「児童労働に反対するグローバルマーチ」を日本でも実施するため、1997年に学生5人で発足し、2017年12月で設立20周年を迎えました。

これまで、世界中のすべての子どもが権利を守られ、希望を持って安心して暮らせる社会を実現するため、市民と共に行動し、児童労働の撤廃と予防に取り組む国際協力NGOというビジョン・ミッションを掲げて活動を続けて

きましたが、2016年から新しい活動理念の議論を開始しました。

その背景には、国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」の策定が影響しています。SDGsに掲げられた目標とACEの長期目標の間に齟齬が出てきたことや、SDGsの普遍性を考慮した際に、日本の児童労働についてもACEとして取り組む必要があること、また様々な外部・内部環境の変化を踏まえて、私たち自身の在り方を理事、スタッフも交えて議論しました。以下3つのポイントを説明します。

① 子どもだけではなく若者も

ACEは子ども（18歳未満）だけでなく、子ども期に権利を侵害されたまま青年期に入る若者も対象として支援ができる存在でありたいという考えを反映しました。

※若者とは25歳未満を想定しています。

② 組織の取り組む課題は児童労働に限定しない

児童労働問題の背景や原因、児童労働に陥る潜在的なリスクがある子どもたちが抱える課題へのアプローチも必要と考え、対象とする課題は児童労働に限定しないという結論に至り、従来より広い概念で団体の存在意義をとらえなおしました。

③ フィロソフィーで世界観を表現

フィロソフィーは、パーパスを追求し、児童労働がなくなった後にはどんな世界が待っているのかという「インパクト」と、子どもをどのような存在として見ているかという「視座」、または「信条」(Belief)に近いものを込めました。

組織概要（2018年8月現在）

名称	特定非営利活動法人 ACE
設立年月	1997年12月1日発足 2005年8月8日東京都よりNPO法人に認証 2010年3月31日国税庁より認定NPO法人として認定 2015年1月19日東京都より認定NPO法人として認定
事務所所在地	東京都台東区東上野 1-6-4 あつきビル 3F
代表者	岩附 由香
総収入	9,551万円（2017年度収入）
職員数	専従9人 非専従7人 インターン2人
会員数	正会員118人 賛助会員70人 法人賛助会員40社・団体
寄付者数	マンスリースポーター437人 個人396人 法人71企業・団体
事業内容	子ども・若者支援事業 アドボカシー事業 啓発・市民参加事業 ソーシャルビジネス推進事業 20周年記念事業

役員

理事	岩附 由香	小林 裕	白木 朋子
	新谷 大輔	安永 貴夫	宮本 聡
監事	大石 貴子	矢崎 芽生	丹羽 真理

評議員 ※年1回の評議員会にて組織運営や活動へのアドバイスをいただいています。

秋山 訓子	朝日新聞社 編集委員
生駒 芳子	一般社団法人フューチャリティー・代表理事
江森 孝至	認定NPO法人ふるさと回帰支援センター 事務局長
小城 武彦	会社役員
奥津 雷三	会社員
黒田かをり	一般財団法人CSOネットワーク 事務局長・理事
郷野 晶子	ILO（国際労働機関）理事、UAゼンセン 副会長
坂本 文武	一般社団法人Medical Studio 代表理事
桜田 高明	元ILO（国際労働機関）理事
鈴木 宏二	団体職員
園田 綾子	株式会社クレアン 代表取締役
長坂 寿久	逗子フェアトレードタウンの会 共同代表
並河 進	電通総研フェロー、クリエイティブディレクター
萩原なつ子	立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科 教授 認定NPO法人日本NPOセンター 副代表理事
長谷川真一	ILO 活動推進日本協議会 専務理事
初岡昌一郎	姫路獨協大学 名誉教授
榎本ひかる	京都造形芸術大学附属高等学校 校長
古谷由紀子	サステナビリティー消費者会議 代表
堀内 光子	公益財団法人アジア女性交流・研究フォーラム 理事長 元ILO（国際労働機関）事務局長補
渡邊智恵子	株式会社アバンティ 代表取締役会長

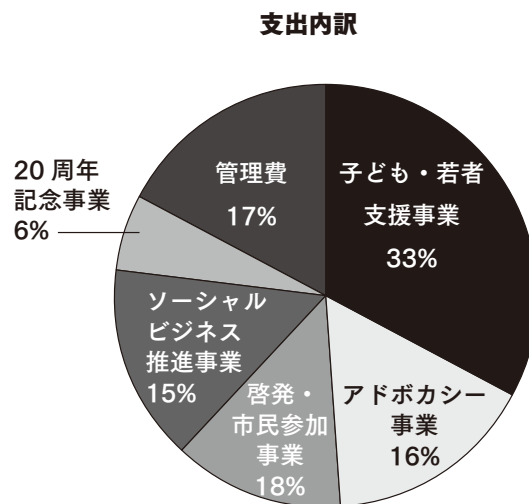
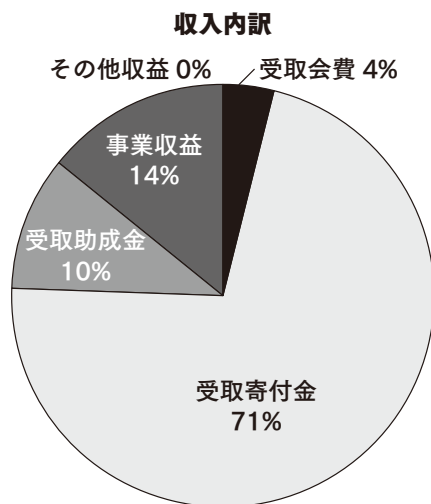
2017 年度 会計報告 (2017 年 9 月 1 日 ~ 2018 年 8 月 31 日)

活動計算書

単位：千円

科 目	2016 年度決算	2017 年度予算	2017 年度決算	達成率	昨年度比	2018 年度予算
I 経常収益						
1 受取会費	3,292	4,560	4,002	87.8%	122%	5,360
正会員	1,236	1,350	1,056	78.2%	85%	1,000
賛助会員	2,056	3,210	2,946	91.8%	143%	4,360
2 受取寄付金	62,325	70,500	68,071	96.6%	109%	91,300
ACE 募金 (一般寄付)	26,223	30,000	33,648	112.2%	128%	43,000
チョコ募金	21,740	26,375	16,547	62.7%	76%	15,000
コットン募金	14,258	9,125	7,374	80.8%	52%	7,800
チャイルドフレンドリー募金	33	0	2,290	-	6938%	22,000
世界の子どもの権利基金	71	5,000	5,302	106.0%	7467%	3,500
ボランティア受入評価益*			2,910	-	-	
3 受取助成金等	8,781	24,580	9,679	39.4%	110%	9,163
4 事業収益	20,062	18,974	13,759	72.5%	69%	17,763
5 その他収益	287	0	8	-	3%	2,000
経常収益計	94,747	118,614	95,519	80.5%	101%	125,586
II 経常費用						
1 事業費	73,059	97,502	81,097	83.2%	111%	102,251
人件費*	29,841	42,471	40,411	95.1%	135%	44,795
その他経費	43,218	55,031	40,686	73.9%	94%	57,455
2 管理費	19,809	18,194	16,746	92.0%	85%	19,368
人件費	13,451	11,729	10,986	93.7%	82%	12,162
その他経費	6,359	6,464	5,759	89.1%	91%	7,206
経常費用計	92,868	115,696	97,843	84.6%	105%	121,619
当期経常増減額 (税引前)	1,879	2,918	-2,324			3,966
経常外収益	273	0	0			0
経常外費用	0	0	3			0
法人税、住民税及び事業税	70	70	70			0
当期正味財産増減額	2,081	2,848	-2,397			3,966
IV 前期繰越正味財産額	13,660	15,741	15,741			13,344
V 次期繰越正味財産額	15,741	18,589	13,344			17,310

※今期より、プロボノによる役務の提供が多かったため、ボランティア受入評価益を算出し計上しています。またボランティア受入費用として同額が、事業費の人件費に含まれています。



<財務状況の分析>

今期は、海外の大口助成金や寄付金収入が想定を下回ったこと、事業収益においては委託業務収入、教材販売、講師謝金収入がいずれも目標を下回ったことなどを主な要因として、全体の収益は前年比 100.8%、予算比 80.5% の 9551 万円にとどまりました。経常費用は前年比 105.3%、予算比 84.6% の 9784 万円となりました。

これらの結果、当期経常増減額は 291 万円の予算に対し△ 232 万円、当期正味財産増減額は 284 万円の予算に対し△ 239 万円となりました。

来期は、東京マラソンチャリティの寄付先に選ばれており、大口の寄付収入が見込めます。引き続き、ファンドレイズ活動に注力し財源を確保するとともに、事業収益の拡大を目指してまいります。

貸借対照表（2018年8月31日現在）

単位：千円

科目	金額
I 資産の部	
1 流動資産	27,883
現金・預金	25,471
現金	921
外貨	77
普通預金	23,743
郵便振替	731
売上債権	145
売掛金	145
棚卸資産	1,843
その他流動資産	424
立替金	406
前払い費用	18
2 固定資産	2,613
有形固定資産	1,403
建物附属設備	65
車両運搬具	1,338
投資その他資産	1,210
敷金	1,200
出資金	10
資産合計	30,496
II 負債の部	
1 流動負債	4,696
未払金	2,329
前受金	1,250
預り金	603
未払法人税等	70
未払消費税	445
2 固定負債	12,456
長期借入金	11,856
預託金	600
負債合計	17,152
III 正味財産の部	
正味財産合計	13,344
前期繰越正味財産	15,741
当期正味財産増減額	-2,397
負債及び正味財産合計	30,496

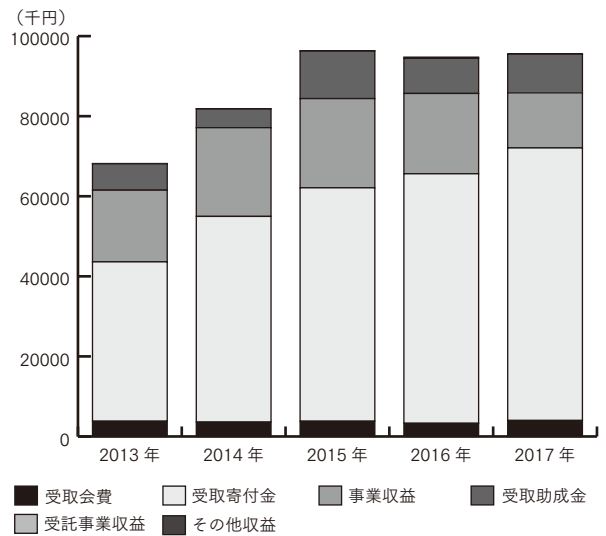
<重要な会計方針>

計算書類の作成は、NPO 法人会計基準（2010年7月20日 2011年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会）によっています。

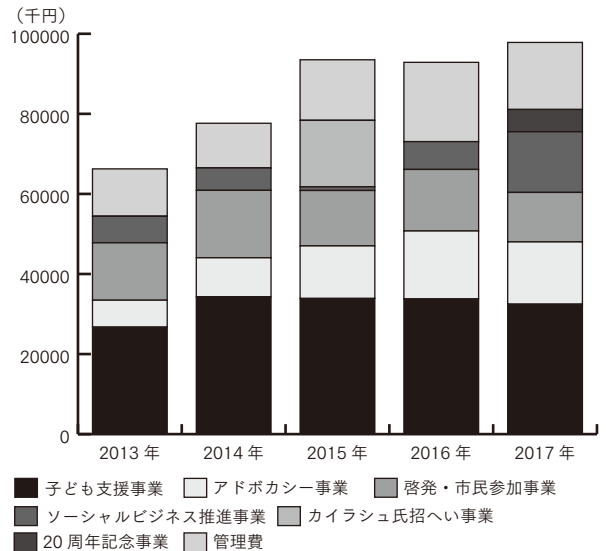
詳細はウェブサイトの決算報告をご覧ください。

<http://acejapan.org/about/finance> 「2017 年度決算報告」

収入の推移



支出の推移



監査報告書

2018年10月12日

特定非営利活動法人 ACE

代表 岩附 由香 殿

特定非営利活動法人 ACE

監事 矢崎 芳生

監事 久保 孝

特定非営利活動法人 ACE 定款第15条第4項の規定に基づき、2017-2018 年度における理事の業務執行の状況及び財産状況について監査した結果、適正かつ正確であることを認めます。

以上

遊ぶ、学ぶ、笑う。

そんなあたりまえを、世界の子どもたちに。



©Natsuki Yasuda / studio AFTERMODE



ー児童労働のない未来へー

特定非営利活動法人 ACE（エース）

〒110-0015 東京都台東区東上野 1-6-4 あつきビル3F
TEL：03-3835-7555 / FAX：03-3835-7601（受付：平日 10:00 ～ 18:00）
www.acejapan.org



Accountability Self-Check 2012

これは JANIC の「アカウンタビリティ・セルフチェック 2012」のマークです。JANIC のアカウンタビリティ基準 4 分野（組織運営・事業実施・会計・情報公開）について当団体が適切に自己審査したことを示しています。

ACE（エース）は、世界中のすべての子どもの権利が守られ、希望を持って安心して暮らせる社会を実現するため、市民と共に行動し、児童労働の撤廃と予防に取り組む国際協力 NGO です。

東京都より「認定特定非営利活動法人（認定 NPO 法人）」として認定を受けています（2015 年 1 月）。認定 NPO 法人へのご寄付は、寄付金控除と税額控除の対象となります。

発行：2019 年 1 月 15 日 / 発行人：特定非営利活動法人 ACE

※本書の一部またはすべてを無断で複写、転載引用することを固く禁じます。

FSC® 森林認証紙、ノン VOC インキ（石油系溶剤 0%）など印刷資材と製造工程が環境に配慮されたグリーンプリンティング認定工場にて、印刷事業において発生する CO₂ 全てをカーボンオフセット（相殺）した「ゼロカーボンプリント」で印刷しています。

